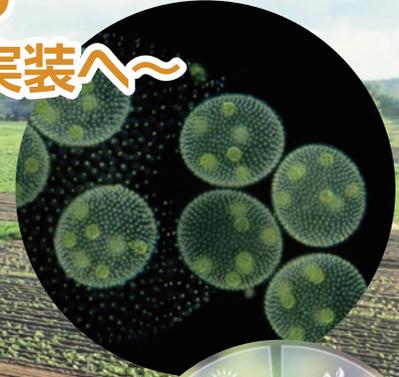


持続可能な 農業イノベーションへの挑戦

～生産性とサステナビリティの両立を目指す
大学発研究 / 事業シーズの社会実装へ～

世界の食料需要の激増が現実になりつつある中、気候変動問題をはじめ、化学農薬による土壌等への負荷、窒素資源の枯渇、世界情勢を反映した農業資材の高騰など、我が国の農業は様々な課題を抱えています。今後、CO₂ゼロエミッション化、化学農薬・肥料の大幅な削減、循環型農法の確立など、生産性とサステナビリティの両立を高いレベルで実現していくことが必要となっており、農学分野はもちろんのこと、工学・情報学分野の大学研究者や大学発スタートアップが、産官学連携を通じたパラダイムシフトの実現に向けて、多面的に研究・実証に取り組んでいるところです。

本イベントでは、農業の生産性とサステナビリティの両立を目的に、「藻類活用/循環システム」「バイオスティミュラント」「IoT等の活用」の3分野における注目の研究者及びスタートアップ関係者9名が登場し、その研究シーズや事業シーズ、連携事例の現状、今後の展開などについてご紹介します。農業分野だけでなく、食品、化学、ライフサイエンス、電子機器、エネルギー、IT、流通など幅広い業界の方のご参加をお待ちしております。



日時 **2025年2月14日 金**
13:30～17:10

※うち16:40～17:10は、交流会（名刺交換会）。
現地参加の方に限ります。

方式 **ハイブリッド開催**

参加費
無料

定員 **現地参加 30名**
オンライン参加 100名

現地会場 **グランフロント大阪ナレッジキャピタル
タワーC 7F(都市活力研究所)**

申込詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=24785>
申込締切 現地参加: 2月13日(木) 正午
オンライン参加: 2月14日(金) 13:30

主催: 関西イノベーションイニシアティブ(KSII)
京大オリジナル株式会社
共催: 京都大学成長戦略本部



お問い合わせ

京大オリジナル(株)共創アシストチーム
E-mail: event1@kyodai-original.co.jp

藻類活用/循環システム



野口 良造
京都大学大学院
農学研究科 教授



北宅 善昭
大阪公立大学
研究推進機構 特任教授



石井 健一郎
株式会社 Seed Bank
代表取締役

バイオスティミュラント



佐藤 雅彦
京都府立大学
生命環境科学研究所 教授



佐古 香織
近畿大学
農学部 講師

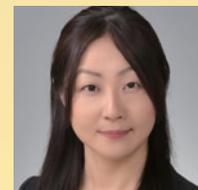


孫 恩詰
株式会社 TSK
代表取締役

IoT・ビッグデータの活用



森本 英嗣
神戸大学大学院
農学研究科 准教授



上妻 馨梨
京都大学大学院
農学研究科 助教



石川 奏太
サンリット・シードリングス
株式会社
代表取締役 (CEO)

13:30 ~ 13:40 Opening ご挨拶およびご説明

北川 雅俊 氏 (関西イノベーションイニシアティブ(KSII) 副総括エリアコーディネーター)

13:40 ~ 14:35 Presentation1 「藻類活用/循環システム」

(1) 「微細藻類を用いた資源・エネルギー生産 —プロセス解析と環境影響評価—」

野口 良造 氏 (京都大学大学院農学研究科 教授)

1993年九州大学大学院農学研究科博士後期課程修了、博士(農学)、宇都宮大学、筑波大学を経て現在に至る。パーム油生産環境の改善とバイオマス利用、籾殻のスマート燃焼、LCAを用いた食料・バイオマス生産における循環型社会の提案などに取り組む。

#水質浄化
#堆肥化
#ライフサイクル
#アセスメント

(2) 「閉鎖生態系として考える施設型植物生産システム」

北宅 善昭 氏 (大阪公立大学研究推進機構 特任教授)

1983年大阪府立大学大学院農学研究科農学博士学位取得、大阪府立大学、千葉大学を経て現在に至る。農業環境調節学の観点から、施設園芸、植物工場、アクアポニックス、マングローブ生態系保全、宇宙閉鎖生態系生命維持システムなどの研究に取り組む。農業気象学会副会長、生態工学会会長、日本学術会議第23・24期連携会員などを歴任。

#植物工場
#アクアポニックス
#宇宙農場

(3) 「微細藻類の種(タネ)を播き、世界を変える新たな農業」

石井 健一郎 氏 (株式会社 Seed Bank 代表取締役)

2012年京都大学大学院農学研究科農学博士学位取得。京都大学大学院農学研究科研究員及び同大学人間環境学研究科研究員として在籍しながら、2017年に株式会社SeedBankを設立。京都大学で培われた様々な微細藻類の分離・培養技術を活かし、世界で唯一の微生物ライブラリーを確立。現在、様々な分野でそれら微細藻類が活躍している。日本海水学会編集委員、日本珪藻学会編集委員、日本プランクトン学会評議委員。

#微細藻類
#種(タネ)
#藻類事業

14:40 ~ 15:35 Presentation2 「バイオスティミュラント」

(1) 「虫こぶ形成研究から見出されたペプチド性植物ワクチン CAPペプチドの開発と実用化の取り組み」

佐藤 雅彦 氏 (京都府立大学生命環境科学研究科 教授)

1994年東京工業大学総合理工学研究科修了、博士(理学)取得、日本学術振興会特別研究員、京都大学総合人間学部助手、京都府立大学人間環境学部助教授を経て、現在、京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授。植物の形態形成における膜交通メカニズムの研究、虫こぶ形成メカニズムの研究など基礎研究に従事、近年は、虫こぶ形成因子として発見したCAPペプチドのバイオスティミュラントとしての実用化を目指した応用研究に取り組んでいる。

#ペプチド性
#バイオスティミュラント
#成長促進
#環境ストレス耐性

(2) 「エタノールによる植物の環境ストレス耐性強化」

佐古 香織 氏 (近畿大学 農学部 講師)

2011年北海道大学大学院生命科学院修了、博士(生命科学)取得。日本学術振興会特別研究員、理化学研究所環境資源科学研究センター特別研究員を経て、2019年に近畿大学農学部に着任。植物の環境ストレス応答機構の解明を目指して研究に取り組んでいる。

#エタノール
#耐塩性
#耐暑性

(3) 「林業廃材のアップサイクルによるバイオスティミュラント資材の開発」

孫 恩喆 氏 (株式会社 TSK 代表取締役)

2006年に京都大学大学院工学研究科修了、工学博士号を取得。積水化学工業株式会社でのELデバイス用封止材開発を経て、2014年から韓国サムスンディスプレイにてモジュール材料開発に従事、国内外の材料メーカー業界に幅広いネットワークを持つ。2021年に株式会社TSKを設立、鉄触媒技術の社会実装を目指す。

#鉄触媒
#フルボ酸鉄
#廃木材アップサイクル

15:40 ~ 16:35 Presentation3 「IoT・ビッグデータの活用」

(1) 「データ駆動型スマート農業技術の開発」

森本 英嗣 氏 (神戸大学大学院農学研究科 准教授)

2003年京都大学大学院農学研究科博士課程後期修了、博士(農学)。東京農工大学、石川県庁、鳥取大学を経て2023年より現在に至る。土壌センサ搭載型可変施肥田植機の開発を始め小型ロボットの開発ならびに生産者に役立つデータベースの構築を進めている。

#ビッグデータ
#精密農業
#親和性

(2) 「小型センサで植物を見守るスマート農業の新技术」

上妻 馨梨 氏 (京都大学大学院農学研究科 助教)

奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科にて博士(バイオサイエンス)取得。Washington State University、Michigan State University、広島大学、東北大学、東京大学、自然科学研究機構アストロバイオロジーセンターを経て、2023年より現職。専門は植物生理学。

#植物センシング
#光合成
#環境ストレス

(3) 「土壌生態系分析技術による農地管理の効率化」

石川 奏太 氏 (サンリット・シードリングス株式会社 代表取締役 (CEO))

筑波大学大学院生物科学専攻修了、博士(理学)、同大にてコンピューターサイエンス専攻修了、修士(工学)筑波大研究員を経てJSPS特別研究員、仏パストツール研/東京大学大学院生物情報科学科にて微生物・ウイルスを中心としたバイオインフォマティクス研究に従事、2020年よりサンリット・シードリングス株式会社入社、2022年より現職。

#環境DNA
#土壌微生物
#農地地図

16:35 ~ 16:40 Closing 事務局からのお知らせ

16:40 ~ 17:10 交流会(名刺交換会) …現地参加の方に限ります。

※諸事情により、本イベントに関して、やむを得ず変更又は中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

その場合、変更又は中止についてWEBサイトへの掲示およびお申し込んだいた皆さまにはメールにてご連絡いたしますので、ご確認をお願いいたします。